

2025年母島調査で出会ったイルカは？

2025年6月、母島列島にてミナミハンドウイルカの個体識別調査を実施しました。3日間、母島の属島も含め沿岸域を隅々まで探しましたが、出会えたのは1群6頭のみという結果でした(図1)。今号では、本調査で確認された2組の親子イルカをご紹介します。

#204 ミミコ(母) & #419(子)

ミミコは、父島と母島の両海域で確認されている個体です。尾ビレの欠けが耳のように見えることが名前の由来です。背ビレの半円型の欠けも識別の手がかりになります。ミミコが子連れで確認されたのは、観察記録上では2006年以来の2回目です。子ども(#419)はまだ特徴が少ないため、名前は検討中です。



#375 右パツ(母) & #420 左エム(子)

右パツは、「イルカ通信」第119号でも紹介した個体で、尾ビレの右側がパツと切れているのが特徴です。2023年からは子ども(#420)を連れていたことが確認されており、子どもは尾ビレ左側にM型の欠けがあることから「左エム」と名付けられました。

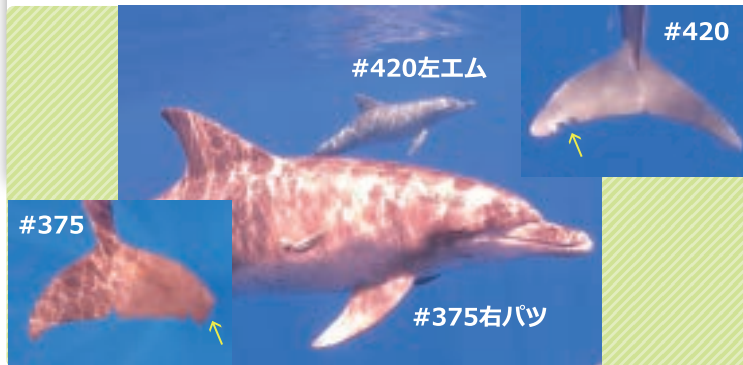


図1. 2025年の調査における母島列島周辺でのミナミハンドウイルカの発見位置



イルカ個体識別情報を募集しています！
ご協力いただける方はぜひこちらの提供
フォームからお送りください！
特に母島の情報募集中！



ザトウクジラ定点目視観測結果報告～2024/25シーズン～

2024/25シーズンに実施した、12月から5月までのザトウクジラ定点目視観測の結果をご報告します。今シーズンは、12月～1月前半にかけて平均発見頭数が1桁台と少なく、増加のペースも過去2シーズンに比べて緩やかでした。しかし、1月後半には発見数が急増し、2月後半には平均約27頭を記録して今シーズンのピークを迎えました。3月に入ると、前半の平均約23頭から後半には約13頭へと減少し、4月以降は10頭を下回る日が続きました。5月に入ると発見ゼロの日も見られるようになり、5月25日が最終確認日となりました。図2のグラフを見ると、今シーズン前半は昨シーズンより、後半は過去2シーズンより発見頭数が少ない傾向が見られますが、一概にクジラの来遊頭数が少なかったとは言いきれません。ピーク期にあたる2月は悪天候の日が続き、観測を実施できたのはわずか11日のみでした。その限られた観測日の中でも、過去最多となる1日44頭の確認があり、観測できなかった期間中に来遊が集中していた可能性も考えられます。

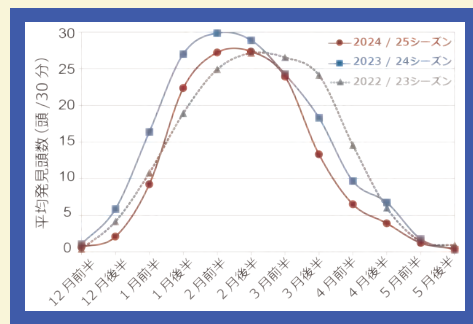


図2. 定点目視観測におけるザトウクジラの平均発見頭数の半月毎の推移